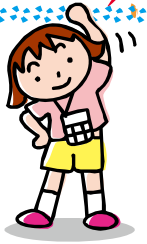




# 歯ろはろ～新聞



発行/ 多田歯科医院 〒760-0080 高松市木太町792-6 ☎815-2010

ホームページ <http://www.tadashika.jp/>

季節は夏真っ盛り！ 夏休み中の子ども達が駆けまわる明るい声が、この季節を盛り上げていますね。しかし、温暖化や節電の影響で“夏の厳しさ”が増している中、照りつける日射しや高い湿度でグッタリしてしまったり、また、「この暑さでついイライラ…」といった方も多いのではないのでしょうか？ もしそんな時は、夏の風物詩でもある『風鈴の音色』に癒されてみるというのはいかがなものでしょうか？ そもそも風鈴は、昔“中国”から伝わってきたものです。当時の中国では風鈴は「風鐸（ふうたく）」と呼ばれ、占いや魔除けの道具として用いられてきたそうです。そして、その風鐸が仏教と共に日本に伝わって、日本でも厄払いとしてお寺に飾られるようになったそうです。昔の人は風鈴の奏でるその音が“災いを遠ざけてくれる”と信じていたようで、それが平安・鎌倉時代の貴族の間に広まり、自宅の縁側に飾って厄除けにしていたと言われています。実は当時の形は今のものとは異なり、素材も銅で出来ていたそうですが、その後、ガラス製になっていったようです（出来たのは今から400年くらい前だったそうです）。しかし、当時のガラスは高級品だったため、風鈴はとても高価なものだったそうですが、少しずつガラスの値段が下がって風鈴が一般家庭に広まっていくのは、それからさらに後の1887年（明治20年）頃からだったようです。当時はまだ扇風機もクーラーもなかった時代ですが、風鈴は涼やかな音色を届けていたんでしょね。昨今は風鈴を飾っているご家庭も少なくなってしまうように思えますが、ガラス製の風鈴は見た目も涼しげで、音色はゆるやかで優しく、心をリラックスさせてくれます。風鈴はペットボトルやガラス製コップなどで簡単に作ることもできますから、子ども達の“夏休みの工作”にもいいかもしれませんね。日本で昔から大切に育まれてきた美しい伝統を、この節電の夏にもう一度見直して、暑い夏でも快適に乗り切っていきたいものですね。こういったちょっとした工夫が、もしかしたら“豊かな心”をもたらしてくれるのではないのでしょうか。



あなたも  
“**歯科通**”に  
なれる…!?

## 歯医者が出題する“**歯とお口のクイズ**”

「前歯」と「奥歯」はそれぞれ役割が違います。例えば、前歯は“**笑顔を美しく見せる**”  
 “**きれいな発音で話す**”ためにとっても重要です。もし前歯が無くなったら、人前で笑顔を見せることをためらってしまいますし、空気ももれて思うように話せなくなってしまうでしょう。それ以外にも、前歯には“**ものを噛み切る**”という大切な役割もあります。

そして奥歯には、“**食べ物を強い力で噛み砕いたり・すり潰したりして消化吸収を助ける**”  
 という体にとってとても大切な役割があります。さて、ここでこんな問題を出題！



### 問題

大人の方が奥歯をぐっとかみしめた時、歯にはいったい何kgの力がかかっているでしょう？

① 約20kg



② 約40kg



③ 約60kg



④ 約80kg

